

岩手県高等学校理数科課題研究発表会で 2グループが研究発表

岩手県内の理数科設置校、SSH校の5校が、平成29年2月16日に富士大学で開催された「岩手県高等学校理数科課題研究発表会」で課題研究の成果を発表しました。各校2グループの合計10テーマを理数科2年生と来年度課題研究に挑む1年生が参加し、代表の研究発表に対して、活発な質疑応答で会場は熱気に包まれました。正に理数科課題研究の祭典というにふさわしく、高校生らしい盛り上がりとしりあな研究発表で、参加者した約400名の高校生にとっては貴重な経験でした。

研究発表後は富士大学経済学部教授の藤原忠雄先生が、「科学研究・実験のあり方」について講演しました。自然科学とは再現性ある観測や実験に基づき、自然界のルールを知る学問であり、実に美しい法則性を示す。実験には誤差がつきものというが、本当に誤差といえるのか、実験方法に誤りはないのかを十分に検討する必要があると講演し、課題研究を行う上で、重要な視点を示しました。



「月の満ち欠けと表面下温度の関係」のグループの発表



「生分解性プラスチックの合成」のグループの発表

◇ 初めて司会に挑戦し、発表・質問のしやすい雰囲気をつくろうと、司会進行の中でユーモアを混ぜてみた。少しは効果があったと思った。県大会ということもあり、内容も発表技術も高いレベルにあった。

(司会者)

◇ 今回の発表では練習量が足りず、改めて練習は必要だと感じた。その中でも面白い要素を入れるなど、工夫は出来た。次はもっと簡単な言葉で説明できるようにしたい。発表姿勢も含め、たくさん学ぶことができた。司会者のおかげもあって、楽しい雰囲気の発表会になって良かった。

(発表者)

◇ 難しそうな発表会と思い不安だったが、発表者の工夫が素晴らしいと思った。どんなに難しい内容でも笑いを混ぜながら、わかりやすく話しているのだから、マネしたいと思った。私も課題研究を4月から頑張らなければと思った。頑張ります!!

(1年生)

◇ 研究を進めるうえで大切なことは、段取りや手順だと改めて思った。その上で聞く人にわかりやすいスライドを作ってわかりやすく工夫するなどのテクニックについても学ぶことができた。発表会は終始和やかな雰囲気で緊張することなく参加できて、とても良い体験になった。次は自分たちの課題研究の番になるので、この経験を生かして頑張りたいと思う。

(1年生)